

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年5月1日

事業所名チャレンジキッズどんぐり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	お勉強のお部屋はパーティションで仕切り、集中しやすいようにしている。	
	2	職員の配置数は適切である	4	0	担当の他、補助職員を配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	2	お部屋の名前と活動が一致できるようにドアに絵で表示しています。お勉強のお部屋は棚を利用し、おもちゃの取り出しを分りやすくしている。	バリアフリーに関しては、建物が岩内町から借り受けしているため、設置等は困難。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3	1	役場と連携を取りながら改善を行っていますが、職員で工夫できる点については、対策を講じている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	0		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	改善できるものはすぐに取り組んでいる。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	2		ホームページで公表の他、以前より保護者さんから寄せられた質問等に関して、文章等で回答し周知する。 ホームページの内容を充実していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1		第三者による外部調査はしていません。法人本部と今後検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	年に1人1回以上は研修に参加するように、年計画を立てている。外部研修が主ですが、勤務時間で支障のない様ズーム配信などの研修も活用している。	報告会を実施し、職員全員で学ぶ機会を増やす。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4	0	特に入所の際には、様式を用いて記録に残し活用している。	本児の状況や変更等の確認のため、毎年実施の方向で検討。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2	使用していません。医療・教育機関で実施した結果を参考にしている。	発達支援につながるアセスメントの使用については知識や技術がなく、研修等について今後検討。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	0	本人支援だけでなく、保護者の意向・確認を取り、家庭支援・地域支援を積極的に取り組むようにしている。	R6年度より5領域で偏らない支援が求められます。又、事業所は支援内容のプログラムの作成・公表が義務づけられました。それらを含め、家族支援・地域支援などは、より適切で具体的な支援を設定していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4	0		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4	0		
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	ボードに流れや職員配置などを書き、打ち合わせをして共有している。	子どもの行動を予測して怪我のないように、子供が満足できる内容となるよう留意しています。	

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1	担当にこだわらず、チームとして、全員の把握や支援について話し合いができています。プログラムの発案があれば、みんなで共有し準備をしています。	その日の子供の様子やサービス内容で気付いた点を出し合い、改善して次の活動につなげるよう留意しています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	その日のうちに記録するようしております。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	0		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	0	専門機関との連携や、就学移行支援等の際には情報交換をし共有している。	利用開始の際に限らず、子育て支援係の方と定期的な見学の受け入れや情報交換を密にする。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				受け入れ態勢なし。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				受け入れ態勢なし。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1	ケース会議や面談等必要に応じて積極的に行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	特に年度開始に向けて、体制づくりとして学校からの要求で情報交換・意見交換があり行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	0		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	0	コロナ以降、開催が危ぶまれてきましたが、前年度は講演会が開催。積極的に参加の方向。	子ども部会などでは、職員の参加を促し地域の情報交換等を行い関係性を深める。又、職員の視野を広げる。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	日頃の子供の状況は、連絡帳で伝えていきます。また急な連絡、確認等はメール・電話で行っている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	1		職員はペアレントトレーニングの研修の機会があれば積極的に受講しスキルを学ぶ。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	0		令和6年度より5領域を踏まえた総合的な支援の提供が求められているため、新しい様式での計画表の作成に取り組む。それに基づいた支援プログラムを作成し、ホームページで公表する。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	1	子どもの療育している場面を保護者と一緒に見ながら話す機会が少なくなる。すがた受講の際は保護者の参加を促している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2		父母会なし。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0		

	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	どんぐり全体としての通信、放課後等デイの通信を2~3ヶ月に1回の予定で発行。	支援の様子を写真等で掲載し、分りやすく、親しみやすい通信を目指します。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4	0		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	0		保護者の皆さんの緊急連絡先を把握しているが、引き渡しの訓練は未実施。又、シュミレーションをしてマニュアルに沿った行動の訓練等を検討。年に各1回は実施予定。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	1		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	0		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1		保護者からの申告（医師の診断書なし）
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0		事例を職員全員で分析し、対策について検討する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0		外部の虐待研修を受け、報告会を通し虐待に関する正しい知識、理解を図る。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	1	これまでやむを得ず身体拘束をする事例はなし。	身体拘束の理解を全職員が学び、日ごろから意識を持つよう研修を行う。